

平成23年度採択プログラム 中間評価調書
 博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表]

機関名	慶應義塾大学	整理番号	A03
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) せいけ あつし 氏名・職名 清家 篤 (慶應義塾大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) はせやま あきら 氏名・職名 長谷山 彰 (慶應義塾常任理事)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) かんなり ふみひこ 氏名・職名 神成 文彦 (慶應義塾大学大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻教授)		
4. 類型	A <オールラウンド型>		
5.	プログラム名称	超成熟社会発展のサイエンス	
	英語名称	Science for Development of Super Mature Society	
	副題		
6. 授与する博士 学位分野・名称	博士(哲学)、博士(美学)、博士(史学)、博士(文学)、博士(図書館・情報学)、博士(経済学)、博士(法学)、 博士(社会学)、博士(心理学)、博士(教育学)、博士(商学)、博士(医学)、博士(工学)、博士(理学)、博士 (政策・メディア)、博士(看護学)、博士(健康マネジメント学)、博士(薬科学)、博士(薬学)、博士(医療薬学)、博 士(経営学)、博士(システムエンジニアリング学)、博士(システムデザイン・マネジメント学)、博士(メディアデ ザイン学)		
7. 主要分科	(①) (②) (③) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	情報学全分科、生活科学、人間医工学、健康・スポーツ科学、文学、法学、政治学、経済学、経営学、社会学、 数学、物理学、複合化学、材料化学、機械工学、電気電子工学、建築学、材料工学、総合工学、腫瘍学、基礎 医学、社会医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学、看護学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場 合は下線を引いてくださ い。)	文学研究科哲学・倫理学専攻、文学研究科美学美術史学専攻、文学研究科史学専攻、文学研究科国文学 専攻、文学研究科中国文学専攻、文学研究科英米文学専攻、文学研究科独文学専攻、文学研究科仏 文学専攻、文学研究科図書館・情報学専攻、経済学研究科経済学専攻、法学研究科民事法学専攻、法 学研究科公法学専攻、法学研究科政治学専攻、商学研究科商学専攻、医学研究科医学研究系専攻、理 工学研究科基礎理工学専攻、理工学研究科総合デザイン工学専攻、理工学研究科開放環境科学専攻、 政策・メディア研究科政策・メディア専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名	なし		
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名	なし		
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	なし		

(機関名: 慶應義塾大学 類型: オールラウンド型 プログラム名称: 超成熟社会発展のサイエンス)

14. プログラム担当者の構成 計 42 名					
外国人の人数		0 人	[0.0%]	女性の人数	
				3 人 [7.1%]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [100.0 %]					
プログラム実施大学に属する者			42 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			37 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				0 人	
				0 人	
15. プログラム担当者					
※他の大学等と連携した取組(共同実施を含む)の場合: 基幹大学に所属するプログラム担当者の割合 [%]					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
(プログラム責任者) 長谷山 彰	ハセヤマ アキラ		文学研究科・史学専攻・教授(慶應義塾常任理事)	史学・法学博士	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター) 神成 文彦	カナリ フミヒコ		理工学研究科・総合デザイン工学専攻・教授	光エレクトロニクス・工博	プログラムコーディネーター(H25. 7. 26交替) 大学院生プログラム指導
青山 藤詞郎	アヤマ トウジロウ		理工学研究科・総合デザイン工学・教授(理工学研究科委員長)	機械工学・工博	分野間連携
天野 英晴	アマノ ヒデアキ		理工学研究科・開放環境科学専攻・教授	計算機工学・工博	国際連携
伊藤 公平	イトウ コウヘイ		理工学研究科・基礎理工学専攻・教授	材料化学・Ph. D.	国際連携
今井 宏明	イマイ ヒロアキ		理工学研究科・総合デザイン工学専攻・教授	材料化学・工博	進学する学部生指導
大西 公平	オオニシ コウヘイ		理工学研究科・総合デザイン工学専攻・教授	電気電子工学・工博	分野間連携 (H25. 7. 26コーディネーター交替)
黒田 忠広	クロダ ナカツヒロ		理工学研究科・総合デザイン工学専攻・教授	LSI工学・工博	産業界連携
小池 康博	コイケ ヤスヒロ		理工学研究科・総合デザイン工学専攻・教授	光材料工学・工博	分野間連携
高山 緑	タカヤマ ミドリ		理工学部・教授	ジェロントロジー、生涯発達心理学・博士(教育学)	学生カウンセリング H25. 11. 20追加
戸嶋 一敦	トシマ カズノブ		理工学研究科・基礎理工学専攻・教授	生命化学・工博	産業界連携
山中 直明	ヤマナカ ナオアキ		理工学研究科・開放環境科学専攻・教授	通信工学・工博	産業界連携
伊藤 裕	イトウ ヒロシ		医学研究科・医学研究系専攻・教授	内分泌代謝・医博	産業界連携
大谷 俊郎	オオタニ トシロウ		健康マネジメント研究科・看護・医療・スポーツマネジメント専攻・教授	スポーツ医学・博士(医学)	分野間連携
北川 雄光	キタガワ ユウコウ		医学研究科・医学研究系専攻・教授	一般・消化器外科・医博	医学系幹事
武林 亨	タケハシ ヒコシ		医学研究科・医学研究系専攻・教授	公衆衛生学・博士(医学)	大学院生プログラム指導
坪田 一男	ツボタ カズオ		医学研究科・医学研究系専攻・教授	眼科学・医博	産業界連携
戸山 芳昭	トヤマ ヨシアキ		医学研究科・医学研究系専攻・教授(慶應義塾常任理事)	整形外科学・医博	分野間連携
三村 将	ミムラ マサル		医学研究科・医学研究系専攻・教授	精神神経科学・博士(医学)	進学する学部生指導
安井 正人	ヤスイ マサト		医学研究科・医学研究系専攻・教授	薬理学・博士(医学)	国際連携
矢作 直久	ヤハキ ナオヒサ		医学研究科・医学研究系専攻・教授	低侵襲療法・博士(医学)	産業界連携
里宇 明元	リウメイゲン		医学研究科・医学研究系専攻・教授	リハビリテーション・博士(医学)	産業界連携
上山 信一	ウエヤマ シンイチ		政策・メディア研究科・政策・メディア専攻・教授	公共経営学・修士	産業界連携
國領 二郎	クニノリョウ ジロウ		政策・メディア研究科・政策・メディア専攻・教授	経営情報システム・経営学博士	政策・社会科学系幹事
徳田 英幸	トクダ ヒデアキ		政策・メディア研究科・政策・メディア専攻・教授(政策・IT研究科委員長)	Computer Science・Ph. D.	産業界連携
村井 純	ムライ ジュン		政策・メディア研究科・政策・メディア専攻・教授	コンピュータコミュニケーション・工博	進学する学部生指導
渡辺 光博	ワタナベ ミツヒロ		政策・メディア研究科・政策・メディア専攻・教授	抗老化医学・Ph. D. (理学)	分野間連携 H25. 4. 1追加

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
秋山 美紀	アキヤマ ミキ		政策・メディア研究科・政策・メディア専攻・准教授	ヘルスコミュニケーション・博士(政策・メディア)	大学院生プログラム指導 H24.10.16追加
内藤 泰宏	ナトウ ヤスヒロ		政策・メディア研究科・政策・メディア専攻・准教授	システム生物学・博士(医学)	大学院生プログラム指導 H25.4.1追加
森川 富昭	モリカワ トミアキ		政策・メディア研究科・政策・メディア専攻・准教授	医療情報学・博士(工学)	産業界連携 H25.4.1追加
石橋 孝次	イシハシ コウジ		経済学研究科・経済学専攻・教授	産業組織論・Ph.D.	産業界連携
河井 啓希	カワイ ヒロキ		経済学研究科・経済学専攻・教授	計量経済学・商学修士	国際連携
駒村 康平	コマムラ コウヘイ		経済学研究科・経済学専攻・教授	社会政策・博士(経済学)	大学院生プログラム指導
清家 篤	セイケ アツシ		商学研究科・商学専攻・教授(慶應義塾大学長)	労働経済学・博士(商学)	分野間連携
早見 均	ハヤミ ヒトシ		商学研究科・商学専攻・教授	労働経済学・博士(商学)	進学する学部生指導
八代 充史	ヤシロ アツシ		商学研究科・商学専攻・教授	人的資源管理論・博士(商学)	産業界連携
井上 逸兵衛	イノウエ イツペイ		文学研究科・英米文学専攻・教授	社会言語学・文学博士	分野間連携 H25.6.21追加
倉田 敬子	クラタ ケイコ		文学研究科・図書館・情報学専攻・教授	図書館・情報学・文学修士	大学院生プログラム指導 H25.6.21追加
平野 昭	ヒラノ アキラ		文学研究科・美学美術史学専攻・教授	音楽学・芸術学修士(音楽)	分野間連携 H25.6.21追加
明石 欽司	アカシ キンジ		法学研究科・公法学専攻・教授	国際法・法学博士	該当無し H26.4.1追加
井上 一明	イノウエ カズアキ		法学研究科・政治学専攻・教授	現代アフリカ政治論・法学博士	該当無し H26.4.1追加
武川 幸嗣	ムカウ コウジ		法学研究科・民法学専攻・教授	民法・法学博士	該当無し H26.4.1追加

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

プログラムの概要

20世紀は高度産業化社会発展の時代であったが、21世紀に入り一転して、急速な少子高齢化への進展、低成長経済の定着等、いわば超成熟社会に日本は先進国の中で最初に突入して行く。このように出口を求めるのが困難な時代に、社会が求める人材とは、こうした人類共通の課題となる超成熟社会の問題に対し、持続的な発展のシナリオを描くとともに、それを実行できる骨太の専門性(スペシャリスト要素)と周辺総合力(ジェネラリスト要素)をとともに備えた次代のリーダーであろう。本プログラムは、こうした次代のリーダーの資質を養成することを目的として、慶應義塾大学大学院の文系・理工系・医療系・政策系をカバーする13研究科の中からチャレンジ精神溢れる学生を選抜し、骨太の専攻を基盤に、本格的な文理融合と産業界・行政体との密な連携による革新的な教育システムを備え、5年一貫の教育課程により、次代の高度博士人材の育成・輩出を目指すものである。

多様な分野から選抜された学生は、RA(リサーチアシスタント;非常勤研究員)として雇用され、経済的な支援を受ける一方、自分の専攻の履修に加え、本プログラムが整備した5年間の教育課程を履修する。その教育システムは3つの大きな柱を備える。第1は、ダブルメジャー取得による本格的な文理融合の実現であり、最初の3年間で、自分が所属する13研究科の何れかの修士号取得に続き、本プログラムの趣旨に賛同した7研究科(理工、文、経済、法、商、医、政策メディア)の中から、専攻の枠を大きく超えた研究テーマに係る研究科の修士号を取得する。この実現のため、本学は短期で的確に必要な単位取得を可能とするジョイントディグリー制度を制定した。

第2は、産業界・行政体との密な連携(産学官連携)による革新的な教育システムの構築である。日本を代表する企業や行政体から推薦された現役部長クラスの方々10名がメンター(非常勤特任教授)として来学し、毎週土曜日に5年間継続してメンターゼミを開講する(グループプロジェクト演習;「GPE演習」という)。その中で多様な分野のRA達は、人類共通の課題である「超成熟社会発展のサイエンス」を共通プラットフォームとして、社会の視点で様々な課題を自ら設定し取り組み、海外・国内のフィールドワークを活用しながら、問題発見力と実践的な解決力・企画力を養う。その成果は春秋タームペーパーを経て、政策提言や企業長期戦略提言に纏められる。

第3は、超成熟社会の課題を紐解くスキルを習得可能とするために本プログラム用に設置した22の演習等共通科目の履修、海外インターンシップ・短期留学、夏・冬キャンプ、シンポジウムの企画等による、総合力と世界人の視野の養成を可能とした点にある。

プログラムの特色

本プログラムの最大の特色は、ダブルメジャー取得による本格的な文理融合の実現(上記第1の柱)と産業界・行政体との密な連携(産学官連携)による革新的な教育システムの構築(上記第2の柱)の相乗効果において、これまでにない学生が育成されるという点にある。専攻と副専攻の修士号を3年間で取得すること自体が高いハードルであるが、それに加え、第3の学生訓練の場として、産業界・行政体との連携の下、毎週土曜日に5年間継続してメンター指導によりグループプロジェクト演習(GPE演習)を行なうという教育環境を整備した。この専攻、副専攻およびGPE演習を三位一体として構成し、その相互の研究主題を所定の距離感に置くことを課す中で、例えば理工学研究科の学生が、経済学修士を取得するように、専攻の枠を大きく超えた副専攻履修を実現するとともに、アカデミアの視点に加えて社会・産業界の視点で専攻の研究を見直すことができ、総合的俯瞰力や独創的企画力の形成に大きな貢献が期待される。実際に、昨年11月に行なった5以上の大企業人事担当者との意見交換において、これまでに無い人材が育っているとの高い評価を受けた。

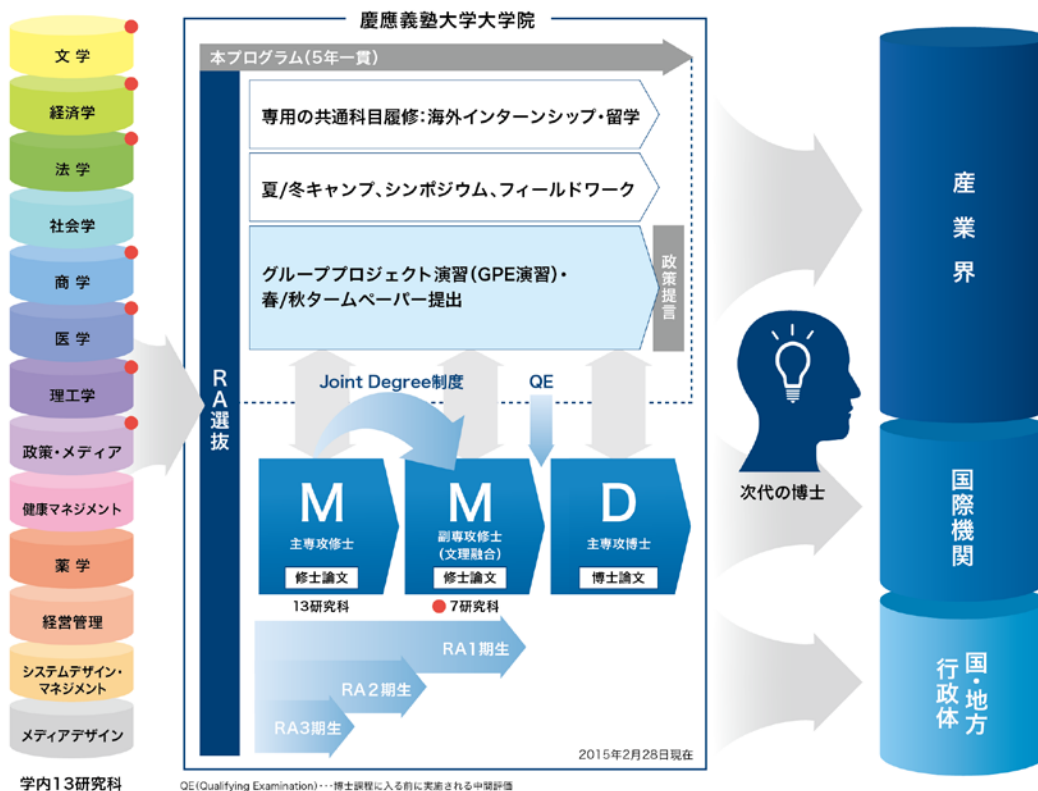
プログラムの優位性

本プログラムの優位性は、本学の総合大学としての強み(本格的な文理融合実現のための幅広い選択肢の提供に貢献)、開学以来の長い歴史の中で築かれた海外265の協定校との連携による海外展開(海外協定校とのダブルディグリー制度の活用による本プログラム参加留学生の拡大や短期留学先の確保に貢献)、および本学のOB/OG会である三田会の人的ネットワーク活用による事業展開(優秀な現役メンターの確保や国内外インターンシップ先の確保に貢献)において、特に顕著に発現されている。

学位プログラムの概念図

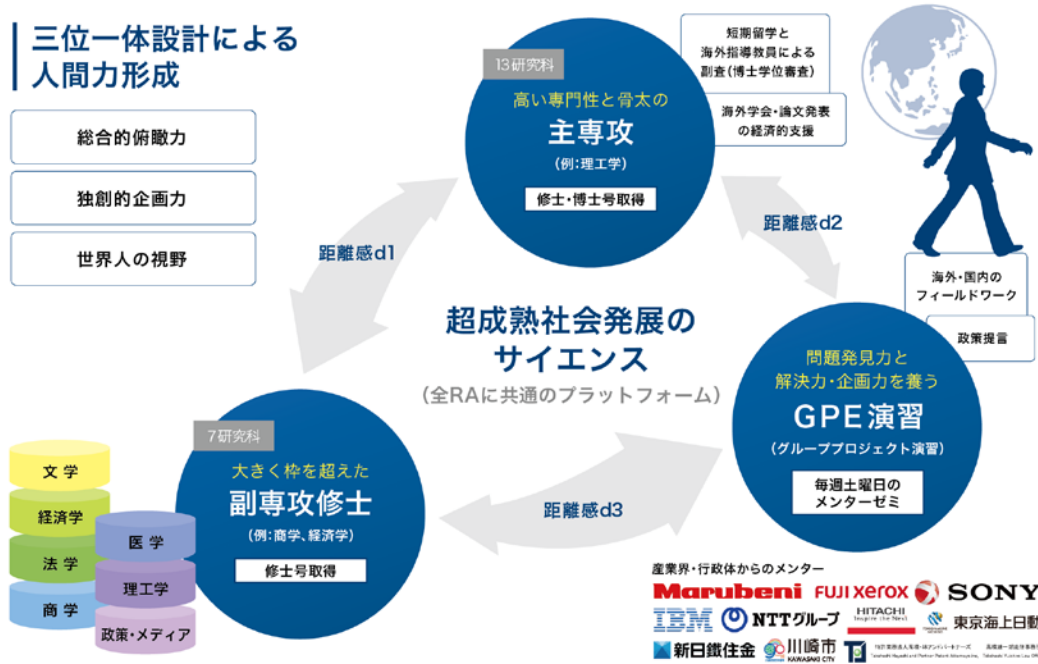
(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

13研究科から選抜された学生が切磋琢磨するMMD教育システム



三位一体設計による人間力形成

- 総合的俯瞰力
- 独創的企画力
- 世界人の視野



「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	慶應義塾大学	整理番号	A03
プログラム名称	超成熟社会発展のサイエンス		
プログラム責任者	長谷山 彰	プログラムコーディネーター	神成 文彦

(評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <p>計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。</p>
<p>[コメント]</p> <p>リーダーを養成する学位プログラムの確立については、5年間一貫の学位プログラムMMD教育システム（プログラム課程において、最初の2年間で主専攻修士課程、次の1年間で副専攻修士、最後の2年間で主専攻博士課程の学位を取得するシステム）の中で文理融合教育プログラムが効果的に機能し、十分に成果があがっている。</p> <p>産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、グループプロジェクト演習（GPE）やコースワーク等で第一級の教員と緊密に議論できる体制が整えられている点、また、産業界、行政体との緊密な連携によるメンタリング教育環境が整備されている点は評価できる。</p> <p>グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、海外インターンシップへの全員参加や海外在住メンターによる遠隔授業などにより、外国人学生・教員との関わりがシステム化されていること、共通科目の多くが英語により開講されていること、グローバルな教育研究・生活環境が確保されていることなど、十分な指導体制が整備されていると判断できる。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、本プログラムにおいてMMD教育システムのもと学生に厳しい学修・経験を要求している点からも、世界に通用する極めて優秀なリーダー養成が期待できる。</p> <p>優秀な学生の獲得については、学生数は定員数を満たしていないが、学内の文系理系の両方からの志望者を得ていること、また、厳しい選抜を経てプログラムに相応しい学生が選抜されていることは評価できる。今後の広報活動、リクルート活動により、更に多くの学生を得る事が望まれる。</p> <p>事業の定着・発展については、学長の下に設置されたボード会議、プログラム委員会が有機的に連携し、プログラムの進行具合等に関して、現状分析、問題等が継続的に執行部に伝えられる仕組みが確立しており、今後とも、この仕組みの継続が求められる。</p>